

青羽古書店

Aobane Antiquarian Bookshop LLC

〒606-8204 京都市左京区田中下柳町1-5 日の出ビル203

075-585-5477 / kyoto@aobane.com

http://www.aobane.com



「私が古書店という仕事を営むようになって30年以上の時が流れたわけだが、私が当時から今に至るまで絶えず確信しているのは、古書店というものは学問に広く貢献しうる、ということである。しかも、自分自身の利益をないがしろにするのではなく、かといって金策だけで頭がいっぱいになってしまうことなしに、それができるはずだ、ということである。」

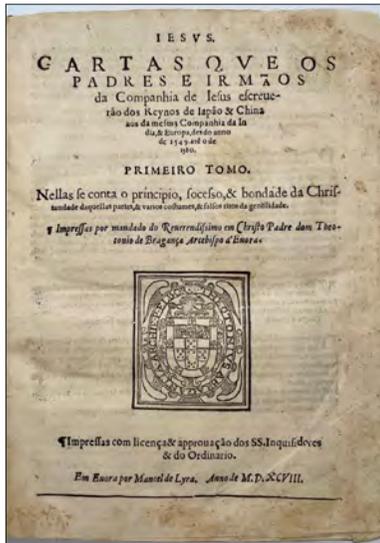
フレデリック・ミュラー

この言葉は、19世紀半ばにオランダで古書店を営んでいたフレデリック・ミュラー (Frederik Muller, 1817-1881) が1872年に残したものです。ミュラーは、古書店を単なる古物の転売屋とは見なさず、一点一点の書籍について、その刊行年、著者、内容、歴史、来歴などを詳しく調べ上げた上で、詳細な販売目録を発行した古書店のパイオニア的人物として知られています。彼が発行した目録の質の高さは、学問研究にも大きな影響を及ぼしたと言われており、現在にあってもなお活用できるものです。彼は、古書を単なる骨董としてではなく、彼独自の視点から新しく再評価、再提案することによって、書物そのものを新しく蘇らせたということができるとでしょう。青羽古書店は、この偉大な先人の言葉を胸に、現代において学問と文化に貢献しうる洋古書店となることを目指しています。

多くの古書達は一人の古書店主よりも遥かに長い時代を生き、様々な人々や出来事を結びつけ、今日の私たちの眼前にあります。こうした古書に何をどう見るのか。優れた古書は見る者のあり方を映し出す鏡のような存在です。これまで長きにわたって必要とされてきた古書が、今日になってもし不要とされるのであれば、それは古書そのものではなく、古書を見る者の変化を物語っています。古書店に何ができるか、ということはその古書店が生きた時代、地域によって様々でしょうが、どんな形であれ「社会に必要とされる存在であること」がその根底にあると言えます。一時に比べると貴重古書、特に洋古書については、冬の時代とまで言われる厳しい状況にあります。そうした時代だからこそ、資料そのものが持つ力、古書店の存在意義に対する疑問に正面から答えていきたいと青羽古書店は考えています。

第2回目の出展となる今回は、日本と西洋諸国との交流に関する資料を中心に、様々な書物や地図、ポスターなどを取り揃えています。ここでご紹介している資料は展示資料のごく一部ですが、できる限りこれまであまり知られていない、あるいはよく知られているものの、入手が非常に難しいとされている資料を中心に展示資料を構成しています。会場ではここに収録されていない資料も含めた展示目録を配布予定ですので、ご希望の方はご遠慮なくお申し付けください。

皆様のご来場、こころよりお待ちしております。



1) イエズス会『エヴォラ版書簡集』第1巻

1598年エヴォラ刊

IESVS. CARTAS QVE PADRES E IRMÃO de Companhia de Iesus escreverão dos Reynos de Iapão & China...PRIMERO TOMO.

Evora: Manuel de Lyra, 1598.

¥4,400,000 (税込)

1549年から1580年までのイエズス会士による日本書簡を集成した作品で、「エヴォラ版書簡集」の通称で知られるものです。ポルトガルのエヴォラを訪問した天正遣欧使節に出会って大きな感銘を受けたブラガンサ大司教が手がけたもので、1570年にコインブラで刊行された書簡集（通称「コインブラ版書簡集」）を刷新した書簡集です。多くの書簡の原語であったポルトガル語で刊行されているため、他の書簡集よりも正確性が相対的に高いとされています。松田毅一らによる『16・17世紀イエズス会日本報告集』の底本となったことでも著名な作品ですが、現存本は極めて少なく古書市場に出現することは滅多にない稀観書です。

2) 川瀬巴水 / 野口謙次郎 / 鉄道省 『日本：雪の宮島』

(ポスター) [1932年] 東京 (渡邊庄三郎) 刊

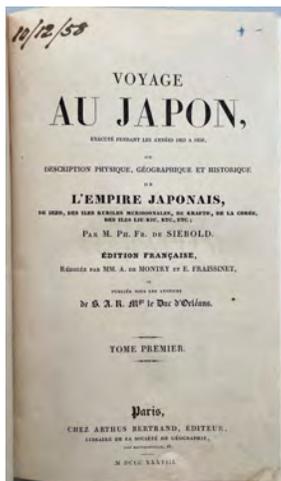
Kawase, Hasui / Noguchi, Kenjiro / Japanese Government Railways.

Japan. The Miyajima Shrine in Snow.

Tokyo: S. Watanabe, [1932].

¥550,000 (税込)

海外からの観光客誘致とそれによる日本の対外イメージアップを図るための機関である鉄道省国際観光局が英文ポスター。野口謙次郎による台紙の上に、渡邊版画店が特別に製作した川瀬巴水の木版画「雪の宮島」を一枚ずつ貼り付けるという、ポスターとしては異例の豪華な作りとなっています。この巴水の木版画は、ポスターに使用されることを念頭に通常とは異なる色味で特別に製作されており、1万枚もの数が刷り上げられたことがわかっています。その一方、海外向けに製作された英文ポスターであったため、当時国内ではほとんど流通せず、現存数も少ないことから巴水作品として現品が紹介される機会も限られている希少なポスターです。



3) シーボルト / モントリー / フレシネ (訳)

『日本への旅』(『NIPPON』) 本文第1巻、第5巻 (既刊揃い)

フランス語訳版 1838、1840年パリ刊

Siebold, Philipp Franz von / Montry, Albert de / Frassiniet, Éd.(trs.) VOYAGE AU JAPON, EXÉCUTÉ LES ANNÉES 1823 A 1830, DESCRIPTION PHYSIQUE, GÉOGRAPHIQUE ET HISTORIQUE DE L'EMPIRE JAPONAIS,...Paris: Arthus Bertrand, 1838 / 1840/

¥1,100,000 (税込)

シーボルトの原著『NIPPON』の大変珍しいフランス語訳版です。原著ドイツ語版の既刊部分から翻訳されたもので、本書とは別に図版集も刊行されていますが、テキスト編はこの2冊しか刊行されず未完に終わっています。フランス王室の援助を受けて刊行されたフランス語訳版は、図版、テキスト編ともに現存数が少ない稀観書となっています。



4) 長谷川武次郎 『日本昔噺集成』平紙本 全3巻 (揃い)

1886 から 1889 年 東京 (弘文社) 刊

Hasegawa, Takejiro. Japanese Fairy Tales.

Vol.I (no.1-6), Vol.III (no.7-12), Vol.III (No.13-18).

Collected plain paper edition. 3 vols.(complete)

¥770,000 (税込)

長谷川武次郎によるちりめん本で著名な「日本昔噺」シリーズの大変珍しい平紙集成版の全3巻揃いです。各巻に6話ずつ収録して、3巻で合計第18話までが収録されています。各巻の表紙には収録されている物語の主人公たちが共演する本書独自のデザインとなっていて、当時ちりめん本で成功を収めつつあった長谷川武次郎が、平紙本にも独自のこだわりと愛着をもっていたことを偲ばせてくれます。通常のちりめん本、平紙本と比べてこの集成本はその存在が知られること自体あまりなく、3巻が揃って見つかることは滅多にありません。なお、この集成版はこの3巻までが刊行されたものと考えられています。

5) [ラルメッサン] 「将軍、日本の皇帝」(銅版画)

17世紀後半パリ刊

[Larmessin I, Nicolas de.]

XOQVN, EMPEREVR DV IAPON,...

Paris: P. Bertrand Rue, c late 17th century.

¥55,000 (税込)

日本の将軍(Xogun)を想像で描いたユニークな銅版画で、17世紀後半にパリで刊行された作品です。ルイ14世をはじめとした世界の名君主を描いた銅版画シリーズを手がけたラルメッサン(Nicolas de Larmessin I, 1632-1694)によるもので、そのシリーズの一つを構成する作品として刊行されています。その姿は実際の将軍とはかけ離れていますが、当時のヨーロッパにおいて異国の君主像としてイメージしやすかったオスマントルコのスルタン像が原型となっています。図下部のテキストではイエズス会士らの日本報告を典拠にしたと思われる日本の紹介がなされていて、文末には日本におけるキリスト教迫害についても言及されています。



6) アメリカ陸軍第1軍団公人訪問連絡部 (GHQ)

『京都とその近郊の旅』(画集) 1945年頃? 京都(便利堂)刊

(Prepared by) HEADQUARTERS I CORPS APO 301, G2
OFFICIAL VISITORS LIASON OFFICE.

Touring Kyoto and Vicinity. Kyoto: Benrido Printing, c1945.

¥550,000 (税込)

敗戦直後の占領下における京都で、GHQが京都画壇の画家達を動員して製作させた観光画集で、京都とその近郊の名所を描いた約80枚もの印刷画(カラー、モノクロともにあり)で構成されています。空襲によって日本中が荒廃していた中で、比較的被害の少なかった京都はGHQ高官達の休暇を過ごすための観光地として人気があり、この画集もGHQ高官への贈呈用に作成されています。戦前から戦中の京都を支えた錚々たる日本画家達とGHQ所属のアメリカ人画家による「名所」を描くそれぞれの視点の違いからは、その背後にある当時の複雑な政治、社会状況が浮かび上がってくるようです。印刷を手がけたのは京都を代表する印刷会社、便利堂で、画集としても大変美しい出来栄えとなっています。



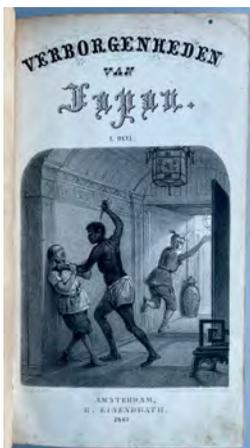
7) 古屋野意春

『万国一覽図』(手描、手彩色、屏風仕立て)

1809年頃に倉敷で製作か?

¥9,900,000 (税込)

二曲の屏風に仕立てられ、二曲合わせると縦横170センチを超える大型の手描世界図です。倉敷の儒家、医師であった古屋野意春が1809年に刊行した『万国一覽図』の手描図で、中国、インド、日本という「三国」が世界の中心であるという「三国世界観」をもとに描かれています。高橋景保らによる西洋製世界図に範をとった同時代の世界図を批判し、膨大な儒学、漢学、仏教学の典籍を読み込んだ上で製作された「文化時代の我が一般人の世界地理に関する心を表現した」独自の世界図で、「わが世界図史上、前例に類例のない独特の存在」(鮎澤1978)とされています。この手描図は、一般に知られている刊版図よりもはるかに大きなもので、いつ、どのような目的で描かれたのかも現時点では定かではありませんが、古屋野が自身の私塾で用いるために製作された可能性もあります。



8) 著者不明 『日本の神秘』(小説)

1867年 アムステルダム刊

Ano.

VERBORGENHOEDEN VAN Japan. 2 vols.(complete)

Amsterdam: B. Eisendrath, 1867.

¥121,000 (税込)

幕末の1867年にアムステルダムで刊行された日本を舞台とした空想小説です。「Frasioika」と「Hiras-ka-na」という二人の男女を巡る物語のようですが、著者名はどこにも書かれておらず、またどのような資料を典拠にしたのかも不明です。空想小説ならではの、幕末期のオランダにおける日本イメージ一例を示す興味深い作品と思われます。当時から発行部数が少なかったのか、国内外を問わず所蔵機関がほとんど見当たらない大変珍しい現存本です。

9) 喜賓会/南貞助

『日本とその主要都市地図(英文日本案内図)』第3版1901(明治34)年東京刊

THE WELCOME FOLIO CONTAINING MAPS OF JAPAN AND HER IMPORTANT CITIES.

Tokyo: Tokyo Printing, 1901.

¥77,000 (税込)

渋沢栄一らによって1893年に創設された日本最初の来日外国人のための接遇機関である喜賓会が1903年に刊行した英文日本案内地図です。表紙裏面に喜賓会の会員証を兼ねた署名欄があり、これを見せることによって国内主要施設の見学や、政財界要人への紹介といった喜賓会の様々なサービスを受けることができました。地図では主要都市を結ぶ鉄道路線や汽船の情報が細かく記されているほか、地図裏面は全面広告となっていて、当時の「インバウンド産業」にどのような企業や商店が携わっていたのかを教えてください。

